

平成20年10月15日

各 位

中央三井トラスト・ホールディングス株式会社
(コード番号 8309 東証第一部)

平成21年3月期 連結業績予想の修正について

平成20年5月19日に公表した平成21年3月期の連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたします。なお、当社単体の業績予想及び配当予想に関する修正はありません。

記

1. 平成21年3月期 連結業績予想

(1) 第2四半期(中間期)業績予想(平成20年4月1日～平成20年9月30日) (単位:億円)

	前回予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (C) ((B) - (A))	増減率 (C) / (A)
経常収益	2,100	2,100	—	—
経常利益	600	260	△ 340	△ 56.7%
中間純利益	300	120	△ 180	△ 60.0%

(2) 通期業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (単位:億円)

	前回予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (C) ((B) - (A))	増減率 (C) / (A)
経常収益	4,300	4,300	—	—
経常利益	1,400	1,000	△ 400	△ 28.6%
当期純利益	800	600	△ 200	△ 25.0%

2. 修正の理由

(1) 第2四半期(中間期)業績予想

国内外の景気が低迷する中、当社の銀行子会社2社の利益水準が当初計画を下回る見込みとなったことを踏まえ、前回予想を修正するものです。

(2) 通期業績予想

第2四半期(中間期)業績予想の修正を受け、通期業績予想についても前回予想を修正するものです。

以 上

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、決算の確定時点まで、様々な要因により変動する可能性があります。

(ご参考1)

平成21年3月期 業績予想の概要について

1. 銀行子会社2社(中央三井信託銀行単体・中央三井アセット信託銀行単体)合算

(1) 中間業績予想(平成20年4月1日～平成20年9月30日) (単位:億円)

	前回予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B)－(A)
実勢業務純益	750	620	△ 130
経常利益	600	270	△ 330
中間純利益	350	150	△ 200
与信関係費用(△)	50	0	△ 50

(2) 通期業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (単位:億円)

	前回予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B)－(A)
実勢業務純益	1,600	1,470	△ 130
経常利益	1,350	1,020	△ 330
当期純利益	850	670	△ 180
与信関係費用(△)	100	100	—

・中間業績予想

- ・実勢業務純益は、住宅ローン残高の順調な積み上がり等により資金利益が計画を上回る見込みであるものの、国内外の景気が低迷する中、投信・個人年金保険販売収益及び不動産関連収益が計画を下回ることを主因として、前回予想比130億円減少の620億円となる見込みです。
- ・上記要因に加え、株式相場の下落に伴う保有株式の減損(160億円)を計上すること等から、経常利益は前回予想比330億円減少の270億円、中間純利益は同200億円減少の150億円となる見込みです。
- ・なお、与信関係費用については、リーマン・ブラザーズグループに対する貸出に関連した損失が発生する一方で、一部の債務者に関して業況改善等による貸倒引当金の戻り益が計上されるため、前回予想比50億円減少する見込みです。

・通期業績予想

- ・中間業績予想の修正を受けて、通期の実勢業務純益は前回予想比130億円減少の1,470億円、経常利益は同330億円減少の1,020億円、当期純利益は同180億円減少の670億円となる見通しです。
- ・なお、与信関係費用については、中間期においては前回予想比減少する見込みであるものの、現状の経済環境を踏まえ、通期では前回予想と同額となる100億円を予想しております。

2. 金融再生法開示債権の見込(平成20年9月末、中央三井信託銀行単体)

銀行・信託勘定合計

(単位:億円)

	20年3月末実績 (A)	20年9月末見込 (B)	増減額 (B)－(A)
金融再生法開示債権	1,556	1,400	△ 156
不良債権比率(%)	1.7	1.5	△ 0.2

3. その他有価証券評価損益の見込(平成20年9月末、当社連結)

(単位:億円)

	20年3月末実績 (A)	20年9月末見込 (B)	増減額 (B)－(A)
その他有価証券評価損益	675	100	△ 575
株 式	1,680	1,400	△ 280
債 券	△ 358	△ 500	△ 142
そ の 他	△ 646	△ 800	△ 154

(ご参考2)

海外向け投融資の全容

1. 時価のあるもの(有価証券)(外国国債・米国エージェンシーMBSを除く)

【中央三井信託銀行単体】

(単位:億円)

	20年9月末 (見込)		備考
	取得原価	評価損益	
サブプライムローン投融資	(注1) なし	-	
その他	4,350	△ 300	
債務担保証券(CDO) (注2)	100	(注2) -	マネジド型シンセティックCDO
投資信託(公社債ファンド)	100	△ 0	国内外の公社債等を中心としたファンド
投資信託(クレジットファンド)	250	△ 30	主に米国企業向けバンクローンを投資対象とするファンド
投資信託(株式ファンド等)	100	△ 10	米国株のマーケットニュートラルファンド等
その他外国債券等	3,800	△ 260	海外事業会社の社債等
合計	4,350	△ 300	

2. 時価のあるもの(外国国債・米国エージェンシーMBS)

【中央三井信託銀行単体】

(単位:億円)

	20年9月末 (見込)	
	取得原価	評価損益
外国国債	750	△ 10
米国エージェンシーMBS	5,450	△ 70
合計	6,200	△ 80

(注1)
Alt-Aに分類される住宅ローンへのエクスポージャー
ありません。

(注2)
クレジットデリバティブ部分を区分経理処理しており、
クレジットデリバティブ部分は80億円の評価損となる
見込みです。なお、この評価損の内50億円は、19年
度に費用計上しており、平成21年3月期の中間期で
は30億円を費用計上する見込みです。

3. 時価のないもの(貸出金・有価証券・支払承諾)

【中央三井信託銀行単体】

(単位:億円)

20年9月末 (見込)	
サブプライムローン投融資	(注1) なし
その他	1,400
企業向け貸出	1,250
非上場外国証券等	100
支払承諾(企業向け)	50
合計	1,400